



Natori
なとり

こくさいこうりゅう

国際交流ニュースレター



第12号

発行: 名取市総務部総務課(平成20年3月31日)



特集

平成十九年度名取市中学生海外派遣事業 夢と共にオーストラリアへ

三月十日(月)〜十八日(火)の間、名取市の中学生二十二人が、オーストラリア、マウントウエイバリー・セカンダリーカレッジ(ペクトリア州モナッシュ市)を訪れました。
生徒たちはマウントウエイバリー校生徒のご家庭に家族の一員として迎えられ、四泊五日間のホームステイを体験。短い期間でしたが、オーストラリアでの日常生活を体験すると共に、名取市の親善大使として友情を育んできました。



マウントウエイバリー・セカンダリーカレッジで、ホストシスターと授業に参加。

ミッション(使命)
二十二人の団員達は昨年十二月からの延べ十日間の事前研修で、派遣団員としての心構えや、英会話などを学びました。
さらに団員たちは、事前研修の中で「自分はオーストラリアで何を成し遂げたいか」「どういうことを達成したいか」という「ミッション(使命)」を各自考えました。
ミッションは「日本ならではの遊びを伝えたい」「ちゃんと人の目を見て笑顔で話す」「オーストラリアと日本の文化の違いを見つけてくる」など様々

派遣事業の日程

- 三月十日(月) 仙台空港から出発
- 三月十一日(火) 香港経由でオーストラリア、メルボルンに到着。市内見学。
- 三月十二日(水) マウントウエイバリー校に到着。ホストファミリーと対面。授業に参加。
- 三月十三日(木) ホストファミリーと自由行動。
- 三月十六日(日) 学校でホストファミリーとお別れ。一路シドニーへ。
- 三月十七日(月) シドニー市内見学。夜、香港へ。
- 三月十八日(火) 朝、香港到着。香港から福岡空港経由で仙台空港到着後、解散。



ジャーニー校生徒による審査の様子。

名取市国際交流実行委員会 絵画・絵てがみコンクール 入選者発表

カナダをテーマにした絵画と、ジャーニー・ミドルスクール訪問団への記念品となるような自由題材の絵てがみを募集していたこのコンクール。応募総数は絵画 35 点、絵てがみ 83 点でした。

3月19日(水)に、来市中のジャーニー・ミドルスクール訪問団と名取市国際交流実行委員会の委員による審査の結果、以下のとおり入選作品が決定しました。おめでとうございます。

●ジャーニー・ミドルスクール賞

※ジャーニー校生徒と先生たちが選んだ作品です。

【絵画コンクール】



跡部直子さん(那智が丘)

【絵てがみコンクール】



鈴木悦子さん(大手町)

●名取市国際交流実行委員会賞

【絵画コンクール】



中学校の部 熊谷清孝さん(ゆりが丘)



小学校低学年の部 跡部寛明さん(那智が丘)

※一般の部は該当作品無し。

【絵てがみコンクール】



小学校高学年の部 櫻井悠花さん(下増田)



小林邦子さん(那智が丘)

じょうほう 掲示板

今号もなとり国際交流ニュースレターをお読みいただきありがとうございました。

このニュースレターは「名取市国際交流協力者(ボランティア)」に登録している皆さんに毎号郵送しているほか、公民館などにも配布しています

国際交流協力者の登録は随時総務課で受け付けていますので、興味のある方はお気軽にご連絡ください。

【問い合わせ】

名取市総務部総務課広報広聴係
電話: 022-384-2111 内線 317-327
FAX: 022-384-9030



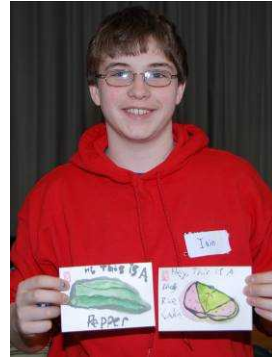


カナダからようこそ！ ジャーニー・ミドルスクール訪問団が 名取市でホームステイ

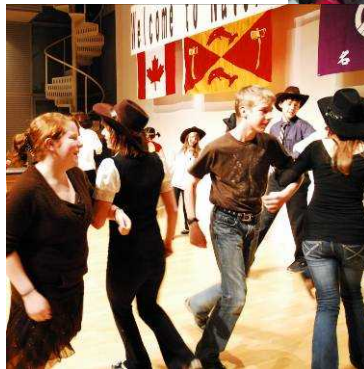
中学生海外派遣事業で交流のあるカナダ、ジャーニー・ミドルスクールから、20人の生徒と3人の先生たちが3月16日（日）～21日（金）の日程で名取市を訪問しました。（オーストラリアのマウントウエイバリー校と1年おきに交流しています。）生徒たちは市内の家庭でホームステイをしながら、市民の皆さんと交流を深めました。その様子を写真で紹介しします。



ボランティアの皆さんのご協力、書道・絵がみ・着付け・茶道と、多くの体験をすることができました。



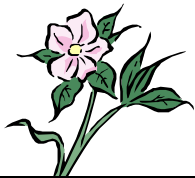
ホストファミリーと初対面。ちょっと緊張？



歓迎会ではダンスを披露。



市内各地区の中学校で体験入学もしました。



British Columbia

カナダ ブリティッシュコロンビア州 スーク市 (The District of Sooke)

カナダ西部、バンクーバー島の西海岸に位置する、人口約1万人のまち。島の南端にある州都ビクトリアからは、車で約35分。気候の温暖な、海と森に囲まれた、美しい場所です。

伝統的な産業は林業と漁業でしたが、最近では観光業が主流で、一度訪ねた人が住みやすさを求めて移住する場所としても人気があります。

ジャーニー・ミドルスクールはどこにあるの？



平成19年度 名取市中学生 海外派遣事業

で、団員それぞれの個性が光りました。
オーストラリア
全てが初めてで新鮮なオーストラリア。団員たちは見るもの全てに歓声をあげ、終始興奮した様子でした。でも、一番心に残ったものは「ホームステイ」。片言の英語で、文化も習慣も違う家庭で四泊することは、中学生の団員達には並大抵のことではなかったでしょう。しかし、毎日学校に集まるたびに見る団員の顔はいつも笑顔。随行の大人たちも団員たちの楽しげな様子に安心すると共に、うれしく思いました。



ホストファミリーとの初対面。お互い緊張しつつも、会えた喜びに顔がほころびます。



多文化社会オーストラリアをさまざまな国と見比べる生徒が在籍。また、留学生の受け入れにも熱心な学校です。

ました。学校での授業参加でも、全てにおいて積極的に取り組む様子が見られました。団員の中には後悔をしないくらい楽しむというミッションを設定した子もいました。せっかく多くの応募者の中から名取市の中学生の代表として選ばれた機会を、自分のため、そして参加できなかった人たちのためにも大切にしたい、という気持ちもあつたようです。



ホストファミリーと動物園でオーストラリア固有の動物を見学。写真はオーストラリアの野犬の一種、ディンゴ。

しています。現在の、国際化がかなり進んだ日本の中で、国際的な感覚を持つ「事の意味合いは、派遣事業が始まったことと比べて変化してきているのではないのでしょうか。外国出身者が身近に暮らしていることが普通になつた今日、さまざまな国籍や文化背景を持つ人々と日本人が共に生きることのできる「多文化共生」の社会づくりが叫ばれています。



スポーツは万国共通語。団員とマウントウエイバリー校の生徒による日豪戦が繰り広げられました。